

*「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。わたしがどこに行くのか、その道をあなたがたは知っています。」(ヨハネ14:1~4)弟子たちはイエスがどこか知らないところへ行ってしまわれるのではないかと心配し、心を騒がせた。「その道をあなた方は知っています」と言われてもピンと来なかった。

そこでイエスは言われた。

*イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」(14:6)「道」はどこへ行く道か。それはすでにイエスが言っておられる通り、「父のみもとに行く道」である。だれも主イエスに依らなければ、父のみもとに行くことはできない。その道は「救いの道」であり「いのちの道」である。旧約の人々は創造主である神を「主」と呼び、「父」とは呼ばなかった。それほど親しい関係ではなかったのである。人が神と親しくなる道は律法を守ることしかなかった。しかし、律法を完全に守ることはできず、かえって異教の神に走るなど神との関係は断絶し、厳しい裁きを受けた。そこに、イエス・キリストは道をつけてくださったのである。十字架というむごい、しかし尊い死によって、信じる私たちが父のみもとに行くことが可能になったのである。

*「私は道である」のもう一つの意味は、私たちの地上の人生をどのように歩んだらよいかを示してくださるということである。どんなにつらい、困難なことがあっても主イエスはともにいてくださり、正しい道を示してくださる。主イエスは人生の道案内人である。

*ピリポはイエスに言った。「主よ、私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」(14:18)父なる神と子なるイエスは一つであることを、イエスはことあるごとに説いて来られたが、弟子たちはなかなか理解できなかった。

そこで、わたしイエスを見る者は父を見るのだと再度教えられた。

永遠のいのちを持つ父なる神のみもとを目指して、真理そのものである主イエスとともに歩み、喜びに満ちた、恵み豊かな人生を送ろう。